



EMC事業通信第3号

2015年9月25日発行

2015-16年度EMC事業主任

とくに
小野 勲紘(六甲部西宮クラブ)

【今月の目次】

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1. 事業計画と目標数値の修正について | 4. 「EMCの窓辺でちょっとブレーク-3」. |
| 2. 部会シーズン始まる (9. 5~) | 5. 「EMC事業主任の大きな一人言-3」(編集後記) |
| 3. EMCシンポジウム(研修会)日程 | |

1. 事業計画の見直しと目標数値の修正について

▼今期期首を迎えるに当たりEMC事業の「事業計画」を策定し、今期の目標数値を設定し、既報「EMC事業通信第1号」において皆様をお願いいたしました。

ところが、今期2015-16年度をスタートするに当たり、提出された半年報の数値を受領したところ、期首数字が予想を大きく下回る**1530名**(3クラブ解散数-27を含む)という減少となりました。2015-16年度の方針策定の段階では、西日本区1600名と想定し、7年後の2022年には、422名の増員を目指す年度ならびに長期・事業計画を作成しました。今期期首スタートに当たり、この予想外のドロップを真摯に受けて、その事業計画の見直しをせざるを得なくなりました。

かくなる上はこの事実を真摯に受け止めて、早期にその方向を修正することにいたしました。そこで皆様のご了解をいただき、目標数値を以下のように修正することにいたしました。目標修正に至る経緯をどうかご理解下さい。そして、今期はこの修正目標値に向かって努力を傾けたいと思います。それには何と言っても皆様のご協力が欠かせません。どうぞよろしくお願いいたします。

1. 事業計画の変更 (変更後目標値)	・増員108名以上 - ドロップ53名以下 = 純増55名 を目指す	新設2クラブ
	↓	↓
	・増員140名以上 - ドロップ70名以下 = 純増70名 を目指す	(変更なし)

ワイズ100周年の2022年に向けての7か年計画(修正後)

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	7年間 通算計
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
期首数字	1530	1600	1671	1741	1811	1881	1952	1530
増員数	140	142	140	140	140	142	140	984
ドロップ	-70	-71	-70	-70	-70	-71	-70	-492
純増数	70	71	70	70	70	71	70	492
期末数字	1600	1671	1741	1811	1881	1952	2022	2022

【参考】<VISION 2022>によるウィチマン国際会長の国際協会全体の設定目標数値の経年割付数値

年度	15-16	16-17	17-18	18-19	19-20	20-21	21-22
期首	29650	32557	35464	38371	41278	44185	47092
増員	2907	2907	2907	2907	2907	2907	2908
期末	32557	35464	38371	41278	44185	47092	50000



上記を西日本区に当てはめた目標数値の類推値(参考数字)

年度	15-16	16-17	17-18	18-19	19-20	20-21	21-22
期首	1530	1680	1830	1980	2130	2280	2430
年間増員	150	150	150	150	150	150	150
期末	1680	1830	1980	2130	2280	2430	2580

※今期ウィチャン国際会長が掲げられた国際の目標値は遠大な数値は、上記のようになります。従ってその比例で類推した西日本区の目標値も、かなり厳しい数字になります。今期目標とする数値の約倍以上もの厳しい数値です。しかし、不可能と決めつける前に、どのようにすれば、それを達成出来るかをクラブ単位で、また部単位で話合っていただき、工夫の糸口を共に探っていきましょう。

2. 部会シーズン始まる

六甲部部会(9月5日)

130名

西日本区のトップを切って、9月5日(土)六甲荘において、六甲部部会が開催されました。目玉イベントは中道基夫理事長による基調講演「YMCAのブランディングについて」と、中村父子による「ピアノ連弾コンサート」でした。双方とも素晴らしい内容で感動的でした。今後のYMCAとワイズの前途を照らして欲しい。

EMC関係では、「EMCシンポジウム」が去る7月25日(土)の評議会において既に済んでおりまして、気分的にすっきりした感があります。六甲部では今までEMCシンポジウムは開催されていませんでしたが、2年前の13-14年度当時の為国EMC事業主任をお招きして開催して以来2年ぶりの開催になります。少しづつですが、メンバーの間にシンポジウムの趣旨と熱意が根付いてきているように思われます。今期はそういった土壌の芽生えによる花を咲かせようではありませんか。

たいYMCAの魅力』～研録



左から力強くアピールする遠藤理事。中はブランディングで危機感を訴える中道理事長。右は中村親子の素晴らしい連弾。

阪和部部会(9月12日)

150名

六甲部に続いて、阪和部部会が奈良の商工会館において開催されました。今期の阪和部部会は東日本震災地域復興支援一色。メネットアワーからその報告と今期の支援方針が報告され、部会に入って基調講演は、仙台YMCAの村井伸夫総主事の「被災地の今-昔のままの、未来に向かって」は感動的なお話でした。よく言われるように、支援はワークの段階を越えて、「現地の産品を買う」「現地に行く(訪問する)」「現地と交わる」という命題はこれからの支援の方向を開けていただいたと思われまます。

EMC関連では「EMCシンポジウム」を11月21日(土)に大阪南YMCAにおいて予定されています。アピールは短い時間でしたが、望月EMC事業主査と白井阪和部150推進チーム委員長と一緒に「VISIN 2022」と「Y'S MEN'S WINDOWS100(→2022)」のアピールをさせていただきました。



左からメネットアワーで、慣れない手つきで「巾着袋(クッキー入り)」を造る。基調講演は仙台YMCAの村井伸夫総主事。東日本震災地域支援献金がか村井総主事に託された。

中西部部会(9月19日)

130名

部会第3弾は中西部部会。メネット会のゲストスピーカーは仙台青葉城クラブの清水弘一ワイズ(YMCA 学園理事)。東日本大震災支援の窓口をされて、東北を訪問する度々にお世話下さっている。この日は「東日本大震災の被災地は“いま”」と題して写真を交えて説明されました。かつて東日本区理事も務められた。



部会のゲストスピーカーはイブネット・ジャパンの代表理事の本田 孝さん。環境教育に携わって40数年。動植物と河川の関係や自然保護普及について、やさしくご説明いただいた。部会の中でも奥田中西部部長から「ワイズの森づくり」の話題から「森は海の恋人」「ウナギの森」といったキーワードが出て、中西部の環境への取組がアピールされた。

六甲部のデビューからすっかり好演ぶりが板についてきた、川上地域奉仕・環境事業主任をリーダーとする、RBM 劇団も猪瀬ワイズ手作りの扮装に助けられ人気者になりつつあります。猪瀬アホドリチームはそのまま次期西日本区大会のアピールへと雪崩込んでいきます。

「EMC シンポジウム」は10月3日(土)16:00~大阪 YMCA において開催されます。皆様のご参加を歓迎しております。シンポジウムは必ずしもその所属部のみではなく、ご都合の付く部のシンポジウムにご参加いただき、部・クラブを越えた発想やアイデアを出し合っていけたらと思っております。所属部のシンポジウムを逃した方は是非、直近のシンポにお越し下さい。

3. EMCシンポジウム(研修会・フォーラム)開催日程

1. 九州部EMCシンポジウム(7月5日(日)九州部評議会に兼ねて実施) 終了
2. 瀬戸山陰部EMCシンポジウム(7月11日(土)瀬戸山陰部評議会に兼ねて実施) 終了
3. 六甲部EMCシンポジウム(7月25日(土)六甲部評議会に兼ねて実施) 終了
4. 中西部EMCフォーラム・10月3日(土)16:00~大阪 YMCA 予定
5. 西中国部EMCシンポジウム・11月14日(土)西中国部部会に兼ねて実施 予定
6. 阪和部EMCシンポジウム・11月21日(土) 13:30~大阪南 YMCA 予定
7. 京都部EMCシンポジウム・1月中 予定

※実施予定の部において、EMCシンポジウム(研修会)の内容についてご希望がありましたらお知らせ下さい。打合せの上、準備をさせていただきます。また、未実施の部において今後EMCシンポジウム(研修会・フォーラム)のご計画がありましたら早々にお知らせ下さい。所属する部以外のシンポジウムへの参加ご希望の方もご希望があれば積極的にご参加いただくことは可能です。他の部の活動を知ることは大変参考になるものと思われま

4. EMCの窓辺でちょっとブレイク-3

今期のEMC活動は基本的には全員参加の活動にしたいと思っております。全ての皆様のノウハウを惜しみなくご披露いただき、そのご経験や足跡を共有していきたいと思っております。そこで、全ての9部からかつてEMC事業に対して経験豊富なワイズメンのヒストリーを語っていただき、全員で共有したいと思います。7月から毎月順に各部持ち回りで連載でそういったヒストリーを掲載しております。今月は菅 正康ワイズ(熊本ひがし)のヒストリーをご披露いたします。

★★★次月以降の予定★★★

2015年10月号 阪和部 11月号 六甲部 12月号 中 部
2016年 1月号 瀬戸山陰部 2月号 京都部 3月号 西中国部
4月号 中西部 5月号 びわこ部 6月号 九州部



EMC について

九州部熊本ひがしクラブ 菅 正康ワイズ

先日、京都で開催された第26回アジア地域大会で、「VISION 2022」すなわちアジア地域1964クラブから3000クラブ、メンバーとして29,650名から50,000名への増加の構想がアジア地域会長からアピールされました。国や地区によってワイズダムの事情は異なるとしても、各地域での YMCA 活動に対する理解と支援のあり方、クラブの立つ位置と構成メンバーの士気等を考えると単なる夢や願いではなく、現実味を帯びた数値目標だなあと感じられ、少々なかだるみ中にあった私の心の中に何かかすかながら灯火が再び燃え始めたようで、これもアジア地域大会に参加できたお陰だと感謝しております。



今、世界は、情報革命の波が国境を越え、国境を越えた人々の交わりや産業・経済のネットワーク分業を通じてアジア地域の様々な分野での統合が模索されはじめており、地球環境の持続可能性を最大化しつつ、そこに住む人々の幸福も最大化する共生の時代、人々の多様な生活文化や考えを考慮しつつ政策を進めて行く本当の意味での民主主義を目指さなければならない時代に来ていると思います。すなわちアジア市民連合(ワイズの目的とそっくりです)の時代です。

私たち日本のワイズダムも今や一日经济圈となったアジア地域の近隣諸国のワイズとの連帯を更に強め、世界中に強力なネットワークを持つ YMCA と協働を視野に自国のワイズ運動の強化を通じて、アジア、世界のワイズ運動に連体し、その一役を果たしたいものです。EMC 強化はアジアいや世界の共存・平和に連なると言っても過言では無い気がします。

さて、翻って、皆さま方のクラブも今期、各会長様のリーダーシップのもとに大きな夢をいだきつつ力強く第一歩を踏み出されていることと思います。そこで会員皆さま方がワイズライフをより楽しんで行かれるにあたり少しでも参考になればと思い、クラブ活動の中で重要な EMC への姿勢について私見を述べさせていただきます。

ご承知の如く E は拡大、拡張すなわちクラブ創り(明確な目的と地域のニーズが必要)、M はメンバー増強(クラブや各メンバーが持つ魅力やブランド力がものを言う)、C は CONSERVATION の C、すなわちクラブ規模の維持とメンバー士気向上への配慮を意味します(「来るものは日々に親し。人生意気に感ず」がキーワード)。この働きは人間に例えれば栄養を吸収しながら(新メンバーの加入)成長し、やがて両親から独立し新しい家族を持ち、その後、子どもたちが同じ生命サイクルを継続して行くダイナミズムと同じです。ひとたびワイズメンズクラブとして存在の目的が与えられたならば(E)、クラブは更に維持発展し(M)、その使命を果たし続けることが望ましく、魅力的で感動的なクラブの姿を示すこと(C)が出来ればクラブは自然とメンバー数が増え、やがてクラブ自身の活性化のために細胞分裂という手段を通じて維持、発展されるのです。その過程を どこかで怠ると、やがてクラブは間違いなく、お友達・仲良しクラブとなり(その働きはクラブライフの魅力ある一つの働きではあるが)、自分たちは気づかなくともよそ者を排除する雰囲気醸成が醸し出され、一部のメンバーの持ち物になってしまい、最後には老化し朽ちて行く道を辿ります(そのようなクラブの姿を30年近くのワイズライフの中で時々見聞きしてきました)。

そのような意味で活発な EMC 活動は、クラブをより魅力的で、周囲や所属メンバーに感動を与え続けることができ、多くのメンバーの顔が輝き、地域社会に必要とされる市民リーダーを生み出し、もちろん YMCA からも必要とされ、いや、その活動の中核としての働きが期待され、そしてアジア・世界にその

活動の成果を刻み続けて行けるクラブの基礎となると思っています。

最後に、私の座右の銘の一つを紹介して稿を終えたいと思います。[あなたの行動が刺激となって他の人がもっと大きな夢を抱いて、もっと多くを学び、もっと多くのことを成し、もっと成長するようになれば、あなたはリーダーである。]です。この言葉は YMCA やワイズの活動の中で個人的に学び実践して来た言葉ですが、クラブの活性化や拡張にも通じるものと思っています。どうか皆さま方の各クラブのご発展とメンバーの皆さま方の益々のご活躍を祈念しつつ筆を置きます。

(1987年度熊本ジェーンズクラブチャーター会長、1994年-95年度西日本区BF事業主任)

★次月10月号は阪和部大阪泉北クラブの松野五郎ワイズにご登壇いただきます。

5. EMC事業主任の大きなひとりごと—3

部会シーズンも3部目を終え、いずれの部会も盛会裡に進んでおります。部会毎に、ワイズメンの皆様の熱意を感じる今日この頃です。テーマの中心である震災支援も5年目を迎えました。主に阪神地域に限定された阪神大震災の時に比べて、東日本大震災は3県に跨っており、その上福島原発という大きな課題も含んでおり、少しずつですが支援も前進しているようです。

先ごろ、東京大学大学院博士課程在学中で、「福島大学つくしまふくしま未来支援センター」研究員の開沼博氏が、『はじめての福島学』(イースト・プレス社)という本を上梓されました。それによると、「福島を理解しているふり」や「寄り添っているふり」が一番迷惑だと述べておられ、なかなか手厳しい。「支援のあり方」や「寄り添うこと」の目線や姿勢については、昨年の中西部部会での柏木先生(淀川キリスト教病院理事長)の基調講演で大切なことを学んだことを思い出します。

その中で開沼氏は支援のあり方の3原則を明確に示されています。それは①「現地の産品を買うこと。(現地でなくてもよい。近くのスーパーでもよいし、部会や西日本区大会で出店された店で買ってもよい)」、②「現地に行くこと(ボランティアでも観光でもよい)」、そして最後に③「現地で働くこと(一時的でも、長期でもよいし、現地のお祭りやイベントを手伝ってもよい)」との3点だそうです。究極のところ「現地」「現物」がよいとのこと。こういった支援のあり方を部会を通して、「現地」「現物」の支援のあり方を学んで実践していきたいものです。阪和部部会において、村井伸夫仙台 YMCA 総主事の基調講演は、そういった支援のあり方をお話しされました。

EMC シンポジウム(研修会)は1/3の部において終了しました。期首のスタート時である最初の「評議会」に併せての開催がベストですが、未実施の部におかれては早々に開催いただき、皆様の士気高揚(C)を図っていただきたく思っております。(EMC 事業主任 小野勅紘)